

## 会議の概要

会議名	平成24年度 宝塚市食育推進会議 第1回 会議
開催日時	平成24年(2012年)9月11日(火) 午後2時～午後4時10分
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
出席委員	保田委員、藤田委員、松本委員、岡本委員、北山委員、中野委員、吉村委員(栗井委員の代理)、檜垣委員、藤野委員、林委員、小東委員、山本委員、福永委員、橘委員、栗本委員、近久委員、田中委員(17名)
欠席委員	2名
傍聴者数	3名
公開の可否	公開
	<p>1 開会</p> <p>(1) 委員委嘱</p> <p>(2) 市長あいさつ</p> <p>(3) 各委員の紹介</p> <p>(4) 会長及び会長職務代理の選出</p> <p style="padding-left: 40px;">会長 保田 茂委員</p> <p style="padding-left: 40px;">会長代理 中野 武委員</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 平成23年度 市で取り組む食育に関する事業の実施状況について</p> <p>(2) 平成24年度 市で取り組む食育に関する事業について</p> <p>(3) 今後の食育推進の進め方について</p>
	<p>(1) 平成23年度 市で取り組む食育に関する事業の実施状況について</p>
	<p>(事務局)</p> <p>事務局より、たからづか食育推進計画 概要について説明、平成23年度 市で取り組む食育に関する事業の実施状況について報告。</p> <p>(委員)</p> <p>皆さんがいかに安心・安全面を含め、食に対して関心を持っているのか分かる。しかし、作って食べることの大切さもさることながら、食べる以前の食育がなされていないと感じられる。</p> <p>食べる以前のことを子ども達、私達大人も含めて今一度見直す食育をしていかなければと感じている。</p> <p>(委員)</p> <p>食べる以前の食育とは？</p>

(委員)

皆さんは、食育といえば、ただ作って食べることだと思うが、それ以前に私たちがいただいているもの全てが自然の恵み、生産者の恩恵を受けていることなど、全てに対する感謝の気持ちが欠落しているのではないか。

いくら体験で農作物を作っても、気候などに左右されながら農作物を作っていく大変さを知り、それに対する感謝の気持ち、全ての自然に対する感謝の気持ちがなければ、お金を出せばいくらでも買える時代、ただ命を担う健康な体を作るためだけになってしまう。

今一度、子どもたちをはじめ、大人も振り返って考え直し、食育に取り組んでいかなければならない。

(会長)

感謝する心を養うことや食べ物ができるまでの過程も学んでいかなければいけないということですね。

(委員)

健康診断で血糖値が高かった。今まで食育推進会議の委員でありながら食べ物の食べ方、噛み方、いろんなことに注意を払っていなかったが、食習慣を変えると減量ができた。

食育の前提として、栄養・習慣・自分の健康の自覚ということが非常に大事であるということ、食に携わる仕事をしていながら、非常に軽視していたと反省する。食事が大変重要なことだと身を持って感じている。

(委員)

昨年度は、宝塚栄養士会として、PTA を対象とした親子料理教室などを担当した。あまり依頼がなかったことは残念だった。

開催時のアンケートで、「たからづか食育推進計画について知っていますか」という問いに、ほとんど知らないという回答だった。

今年、同様の食育事業で、同じアンケートを行い、浸透しているのか知りたいと思うが、たからづか食育推進計画が浸透していないのではないかと感じている。食育事業について PR されていることはよいことだが、その基盤は、たからづか食育推進計画であることが伝わってないと感じている。

(会長)

これは1つの反省点かもしれない。

計画書を配っただけでは中身は伝わらないと思う。

読んでいただいても、委員会で審議いただいた心までは、なかなか伝わらないと思う。

それをどのように工夫し伝えていくかが、今年度あるいは次年度に向けて課題となっていく。

(委員)

昨年度は、歯科医師会が、学校保健大会の当番に当たっており、講演を頼まれた。私も学校教育関係者に食育の話をした。

たからづか食育推進計画を策定し、いろいろな食育事業を進めているが、以前と比べ参加人数に変化はあるのか。

(事務局)

残念ながら以前と比べあまり変わっていない。

(会長)

今の発言に補足し、そのような催しをした時、手ごたえを感じられたか、あるいは反省すべき内容でしたか。

(事務局)

平成23年、24年とたからづか食育フェアを開催し、多くの来場者があり、たからづか食育推進計画を策定したことが次第に浸透していると思う。

しかし、計画の心まで伝わっているかといえは十分出来ていないと考える。

意見を聞いて、私どもも今後そのことを考えていかなければいけないと思った。

(委員)

組織として食に関する計画を立て実施したところ、ごくわずかだが参加する人が増えてきたと思う。

環境衛生推進協議会で、昨年度は宝塚西谷の森公園を2回訪れ、フードマイレージの考え方による地産地消及び宝塚の環境学習を行った。

今年も西谷の森の学習と芋掘り、西谷米でおにぎりを作ってもらった計画をしている。

大勢の参加は無理だが、毎年行っていくことで少しずつ西谷のこと、農産物のことを知ってもらえる人数が増えていくのではないかと思い実施している。

また、11月に環境衛生大会を開催している。組織としていろいろな取組を行っていけば、少しずつでも食のことが広がっていくのではないかなと思い開催している。

(会長)

もう一度、確認の意味で、たからづか食育推進計画の3つの指針を見ていただきたい。

食育は基本的に、親が家庭で子どもに正しい食事の仕方を教える、食にまつわる色々なことを教えるということだが、その家庭で親が為すべきことができていない。

だから今、地域で、学校で、あるいは色々な団体のみなさんにご協

力をいただき、親になり代わって、次の社会を支える子どもの正しい知識なり生活の能力なりを磨くようにする。そのことが食育である。だから、大人に楽しんでもらうだけではいけない。

それらのことに、少し気をつけていただき、同時にこの3つの方向性がその活動に盛られているかということ、絶えず自覚しながら取り組んで欲しい。

今日の活動は、たからづか食育推進計画の3つの指針のうちどの指針の活動なのか、意識して取り組んでいただければ、まさに計画に沿った活動になると思う。

親も楽しみながら、親が楽しんだ後に子どもにそれが伝わるようにしていただきたいと思うので委員の皆様にも心していただきたい。

(委員)

兵庫六甲も食育活動をしている。食育について興味のない人や子ども達は、与えられたものを食べたり、農産物を工業製品のように言ったりする方が多い。難しいと思うが、地元の物を食べていただく、どこで販売されているのか皆が答えられるようにするだけでもよい、そのような地道な活動から行っていけば進んでいくのではないかと思う。

(委員)

先日の食育フェアの講演会で、鍋で米を炊くことができるかという話があった。

最近の主婦は、ほとんどが炊飯器で目盛炊きしており、地域であった集まりで尋ねてみたところ、出来ない方がいた。

西谷では美味しい米を作っている。その米の炊き方から知ってもらう必要があると思う。

(会長)

今の30代、40代の若い世代が、一番生活能力が欠けている。30代、40代が悪いのではなく、その親が悪い。

ということは我々世代が一番の責任者だということになるが、我々世代は子育てをするときに、テレビ情報を優先してしまったことがある。

今、学校の先生に、学校教育の中で食育についてご指導いただきたいとお願いしている。この委員会においても、そのような世代の子どもが小中学生になっているということを念頭に入れながら、たからづか食育推進計画について皆さんと一緒に推進していきたいと思う。

最近の子どもは、生活能力が本当に落ちている。ご飯が炊けるなんておよそ期待できない。そういう実態のなかで食育を進め健康に生きる知恵を磨くには、訓練をする必要がある。

次の時代の子どもが本当にちゃんとした親に育てられるように皆さんで考えてほしい。

(委員)

私もよく知り合いに、たからづか食育推進計画を知っているかと聞くが、知らない方が多く残念である。

こども版ができればいいなと思った。

学校に行くとアレルギーの子が多い。西谷で野菜が作られている事は知っているが、何が採れるのかは知らないし、行ったことはあるが、山がいっぱいあったくらいの感想しかない。

子どもたちがもう少し身近な地域の産物について理解を深めることができれば良いと思う。

(委員)

4年程前に、食育のパネリストとして話をした。その時、以前に骨密度の検査を受けると、骨密度が非常に高く、30代くらいの骨密度であると言われた話をした。牛乳をたくさん飲んだ覚えはないが、小学校から中学校の時、出汁のジャコを食べていた。それが、私の骨を作っている。今食べているものが、即自分の健康につながるわけではなく、色々な物が蓄積されて、将来の自分の体を作るということを、親が知らない。3食の食事をしっかり摂らなければ健康になれないということ、食育ということに無関心な親が非常に多い。

農産物でも水産物でも、食べるものがどういう状態で育ち、どういう状態で採れているのか、食べたものは一体自分の体にどう影響してくるのかを、親が理解しないで子どもに教えようと思っても無理だと思う。まず親が勉強しなければいけない。

宝塚に何年も住んでいるが、西谷を知らず、行ったことがない人もいる。西谷に住んでいる我々としては少しがっかりする。

野菜を販売していて、年配の方でもその野菜は見たことはあっても料理の仕方を知らないことがある。パンとインスタントのものを食べていることが多く、それを子どもに何の気なしに与え、子どもはそのまま食べている。それが普通という生活をしているから大人になってもそれが普通になる。

本当にこの頃は便利で、スーパーに行ったら惣菜が小さいパックでいくらでも売っている。それを買ってきて、さっと食卓に並べる。

そういう主婦が非常に多い。

(会長)

非常に便利な社会になったため、家庭における食育が極めて希薄になっている。そして今、親が子どもに教えられない。こういう現状をこれからどう打破していくのかが一つの大きな課題だと思う。

(委員)

昨年は、PTA代表をしながら、いずみ会のリーダー研修会に参加した。

この計画の3つの指針を参考に、中学校の子どもたちには、給食を残さないで食べようということを1つの指針にした。また、いずみ会で学習した食に関する考え方を、子どもたちに話す機会があった。この3つの指針はとても分かりやすく、私は大好きである。これをもっともっと広めていけるように活動したいと思っている。

(会長)

ご意見を集約すると、計画が浸透していない、あるいは存在は知られていても十分に理解されていない、このことが大きな反省点。子どもが読めるようになっていない、この計画が親に浸透し、親を通して子どもにうまく伝わる、あるいは子どもが直接読んでも理解できるような工夫をする、そういう方向が一つ出てくるかと思う。

それから食育というのは、あくまでも教育であるので、事業をすることが主目的ではなく、そこに教育的な内容が盛り込まれていく必要があると思う。事業を行ったから食育をしたのではなくて、事業に食育的效果が持てる工夫をする必要がある。その点事務局も混同しないようお願いしたいと思う。

あと、宝塚市民にとって西谷は重要な地域であり、美しい農村であるので、西谷の存在がもう少し分かるような、工夫の仕方があってもよいかと思う。そのようなことで総括にしたいと思う。

(委員)

食育の案件で色々言っているなかで、やはり広報活動が非常に弱い。市の広報誌やホームページだけではなく、新聞・ミニコミ誌などを利用するなど広報活動をどのようにすればよいかを考えていかないといけない。若い人は新聞もテレビも見ないスマホ世代ですから。広報媒体を考えてもらえないかと。

(2) 平成24年度 市で取り組む食育に関する事業について

(3) 今後の食育推進の進め方について

(事務局)

8月に実施した食育フェア及び平成24年度宝塚市で取り組む食育に関する事業について報告と説明。

(委員)

事業数や参加人数も大事だが、効果が大事である。どれだけの人が少しでも知識を増したり、行動が変わったかを見ていく必要がある。なので、簡単でよいので何か評価指標となるものが必要ではないか。例えば、現在はこの食育計画はあまり知られていないが、一年から

二年後にアンケートをすると少しずつ増えていっているとか。あるいは1日に野菜を350gとらないといけないことを知っている人の数がこれだけ増えてきたとか、何か定期的に観測できる指標をいくつか持つことが必要ではないかと思う。

(会長)

食育の効果を何で測るのかは難しいことだが、大変大切なことである。基本的には食育は親が家庭で子どもに生きる力として教えることであり、最終的には子どもの変容ということが食育の効果になるのだと思う。

報告を聞くとたくさん事業があるが、これらは必ずしも子どもを対象にした事業ではないので、すぐに子どもの変容ということにならない。ご飯が炊ける子が何パーセントになるかのような統計がとれたら面白い。なかなか難しいが、ぜひ検討しましょう。

各事業については、子どもの変容につながったのかという視点で、本当に役に立ったのかチェックする必要がある。

(委員)

平成21年に宝塚市の女性ボードで、学校給食について提言した。当時、宝塚市は委託炊飯だったが、自校式炊飯を提言した。提言しても必ずしも叶うわけではないし、仮に実現するとしてもかなり時間がかかるものだろうと思っていたが、その年の9月から段階的に始まることになった。これは、私たちが提言したからということではなくて、おそらく全国的に食育の必要性や重要性が高まり、宝塚市も認識し、タイミングがあったのだろうと思う。とてもありがたいと思う。

自校式炊飯を実施した学校が、給食の残飯の量がぐっと減ってきたという話を聞く。ご飯が美味しくなってご飯を残さないということはおかずも残さなくなるということだと思う。

自校式炊飯を始めたことで、悪い評価は聞いたことがない。宝塚市には尚一層これを頑張って推進してほしい。

今年度春から始まった学校給食の放射線量の測定だが、こういう取組をしたから安全だということではない。

課題や取り組まなければならないことはたくさんあるが、学校給食の放射線量の測定についてはとてもありがたいと保護者は思っている。これも続けてほしいと思う。

私自身子育て世代で、姑と同居している。姑は食に関しての意識は非常に高く、家族のためには本当にいろんなことを考えて作ってくれるが、自分自身の食となると、もうご飯と梅干だけで良いとなってしまふ。知識があることと実践することは全く違うことなのだとなと姑を見ているとよくわかる。

歳をとってからもきちんと考えて自分のために食を作れるようになるために、どうしたらいいか考えていきたい。

(会長)

学校給食の自校式炊飯は、素晴らしいことだと思っている。全国的なセンター化で自校式炊飯が減少しているが、センター方式から自校式に戻したのが西では今治市、東では高崎市である。それ以外は、センター方式へ変わりつつある。宝塚市は、全国でもよくやっているとっており、市民の皆さんにもぜひ守って欲しいと思っている。

(委員)

私は家庭における食育が一番だと思う。若いお母さん方というのは私たちが育てた年代で食に問題がある方も多いので、バトンタッチという言葉がすごく気になる。

いかに今の若いお母さん方に正しい知識を持ってもらい、今のここは駄目だよ昔のここが大事だよと伝えていく役目を私たちは果たさないといけないと思う。

先日の食育フェアの講演会は騒がしかった。事務局は反省してほしい。

(会長)

親の再教育が大事ということだろうと思う。今、日本の社会は、コマーシャルが無造作に茶の間に飛び込んでくる。茶の間だけじゃなく、電車の中やスマホからも色んな情報が入ってくる。このコマーシャルリズムの中で、どう正しい知識や能力を子どもに伝えていくか、バトンタッチできるかが大変重要な課題になっている。

(委員)

二点あるが、一点目は学校給食の放射線量の測定を宝塚市が行っているということは、親にとってはすごくありがたいことだ。気になる人はホームページを見てチェックをしているかもしれないが、知らない人は測定していることも知らないので、できたら毎月配られる献立表に結果を一言入れると、啓発できるのではと思う。

(関係課)

給食の献立表で旬の食材など紹介しているが、今のご意見が可能かどうか持ち帰って検討する。

(委員)

もう一点ですが、事業計画を見ると、よいことをやっている。多分ここに参加するお母さんは最初から意識が高い。8月25日の食育フェアの講演会でもちゃんと聞いている方が多くて、多分そういう人は鍋でも米が炊けると思う。

やっている人と全くやらない人との格差があり、その格差を埋めることが大事だと思う。



学校では、3年生は芋掘りに行くと思うが、芋掘りの芋を4月に自分で植えるとか、授業の中で取り組んではどうか。

(会長)

かなりの学校で既に取り組んでいる。

(関係課)

3年生については環境体験学習が行われている。芋に限らず例えば田んぼを借りて苗を植え、収穫に行くというような学校もある。学校によって作物を植えることができたり、田んぼを借りられたり、差があるが、子どもたちが体験をとおして自然の恵みや自然に対する畏敬の念、命に対する思いを育むようきちんと3年生でやっている。5年生では自然学校で、中学校へ行けばトライやるウィークで、段階を踏んで食育の取組みを進めている。

(会長)

学校のほうで先生方も一生懸命頑張っているが、すべての学校において、学校農園があるか、協力農園が得られるかという点と難しいので、それは保護者にも頑張ってほしい。

(会長)

朝コンビニに行く小学校2年生くらいの子が、菓子パンやコーヒー牛乳などを買っている。ご飯はコンビニで買うものという感覚があるのかもしれない。現実にはそれで暮らしが成り立っており、頭から否定はできない。中には買い物に行けない子もいて、朝飯抜きで学校に行ってしまう。現実にはそういう子がおり、学校の先生が、朝ご飯を食べて来いと指導しても改善は難しい。しかし、そのような社会状況を突破し、食育の大切さを訴え続けることが重要である。私は保育園に行き、かまどでご飯を炊き、子どもに本物のご飯を、お母さんにもおいしいご飯を食べてもらう事業を行っている。ご飯が炊ける間に私が急いで話をする。始めは、きょろきょろしている人も話を聞いて最後は朝ご飯を食べることが大事、明日からは頑張りますとなる。やっぱり食育の事業のやり方も上手に組んだら聞きたくない人も聞いてくれる。聞きたくない人にどう聞かせるか、そのような工夫が大切である。

(委員)

今回のたからづか食育推進計画では、シニアに向けての行事が少ないと思う。先ほどの、歳をとってくるとご飯を作るのが面倒で、ご飯と梅干、佃煮さえあれば良いというお話は、私の周りの一人暮らしの方達も言われる。ただ、簡単に美味しいものができたら教えてほしいと言われることも多いので、老人会などの集まりで知識を増やしたり、料理を簡単にしながら栄養的なことも覚えていける機会があれば良いと思う。

(会長)

食育は各世代に向けて取り組むが、最終目標はシニアの方も勉強した上で、さらに孫にどう伝えるかである。次世代のこどもの教育が食育なので、シニア世代だけが良くなってもあまり意味がない。

(委員)

それが代々連なっていくような形となるよう子どもや親以外にシニア世代にもあれば良いと思う。

(委員)

平成24年度の事業の数がたくさん並んでいるが、これは行政が取り組む事業、取り組まれている事業の数だと思う。

行政が取り組んでいる事業と、地域やPTAの方や自治会の方などが取り組んでいる食育の事業がある。そういうところから食育が育っていくのかなと思う。

兵庫県では、「地域の行事食・郷土料理を知っている人、作ることでできる人の割合を増やして行きましょう」を一つの目標にしているが、実施した食育アンケートによると、結果が一番低いのが阪神地域である。地域の郷土食や伝統食をこの地域でどういうものを広げて行くと良いかということが具体的に列記できてみんなで進めていけるようになれば良い。

また、クッキングはとても楽しいと思う。老化にも効く。若い人から高齢者まで、実際に頭を使って生活能力を高めるということで、男性も高齢者もみんなで楽しく取り組んでいく術としては、いい材料だと思うのでみんなで大切にしていきたい。

(会長)

事務局より説明のあった75事業、これは行政が取り組んでいる事業である。食育基本法は、各種団体・機関や個人があらゆるところで食育に取り組みましようという趣旨の法律で、行政以外にもいろいろな団体・機関が取り組んでいる。市民レベルの取組もかなりある。それはなかなか行政で把握できないけれど、把握できる範囲でいいから一回整理しても良いかもしれない。学校ですいぶん熱心に食育に取り組んでいるので、代表的な事例でも構わないので、学校における食育についても整理していただけたら、我々としては参考になるかなと思う。

(委員)

私たちの世代がなかなか食に興味をもてないことがあると思うので食に興味がある人を増やせたら良いと思います。

(会長)

これまでの事業、今まさに取り組んでいただいている事業、これからすべきことについていろいろご発言いただきました。また事務局

の方で整理して、食育がさらに身のあるものになるように、取り組んでもらいたいと思う。自校式炊飯はしっかり市民の力で守っていくということも、皆さんで考え、世論を高めていきましょう。

(その他ご意見)

(委員)

食育で調理実習を行う際、作ったものをその場で食べずに持ち帰ることを主催者側が認めていることがあった。衛生面から、持ち帰りはしないよう徹底していただきたい。

※ 次回は平成25年2月15日に開催することに決定した。